

「ZAIDAN Report」第25号では、「社会福祉法人 まちスウィング」様の活動をご紹介します。

「ソーシャルインクルージョン(社会的包摂)」を理念に掲げ、障がいのある人も、困りごとを抱える人も、地域の中で自然に支え合いながら暮らせる社会の実現を目指す「社会福祉法人 まちスウィング」様の活動の中から、当財団の2024年度助成による「児童発達支援センターの講演会・研修用機材の導入」を通じた地域療育の質の底上げに向けた取り組みを中心にをご紹介します。

「社会福祉法人 まちスウィング」様についてご紹介

- 「0歳から100歳まで誰もがはじかれぬ共生社会の持続と創造」をコンセプトに、地域福祉に貢献し、児童発達支援、放課後等デイサービス、就労支援、生活介護、グループホームといった包括的な支援を通じて、障がいがあってもなくても、生まれたまちで育ち、働き、暮らしていける「社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)」の実現に取り組んでいます。
- 愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンが、将来にわたり持続可能で、すべての世代が安心して暮らせるまちであり続けることを目指した「高蔵寺リ・ニュータウン計画」に、当法人も参画し、地域に根ざした活動を行っています。
- ここでは、主に「児童発達支援センター」(こども部会)の組織・活動を中心にをご紹介します。

沿革

2006年10月	任意団体「まちのエキスパネット」設立
2007年11月	NPO法人認証
2021年7月	社会福祉法人認可(愛知県春日井市)・「社会福祉法人 まちスウィング」設立
2021年11月	「春日井こども発達支援センターてくてく」(児童発達支援センター)開所 「春日井こども訪問てくてく」(保育所等訪問支援)開所
2022年7月	春日井市地域自立支援協議会 委員就任(現在に至る)
2024年10月	太陽生命厚生財団の助成により講演会・研修会用機材を導入

活動内容(事業内容)

- 児童発達支援(午前は親子通所、午後は単独通所によるいずれもグループ療育)および、保育所等訪問支援(幼稚園・保育園・小学校への後方支援)を実施しています。
- また、児童発達支援センターとして地域における中核的な役割を担い、高度な専門性に基づく発達支援および家族支援を行うとともに、発達相談の入口としての相談支援や、地域支援としての研修の開催、関係機関との連携強化に重点を置いて取り組んでいます。

利用実績(2025年度)

- 定員:28名/日(午前14名、午後14名)
- 契約者:111名
- 延べ利用人数:418名/年
- 研修会等:保護者会、職員研修会、講演会など多数開催



「社会福祉法人 まちスウィング」組織の全体像(参考)

本部

発達とサポート部会

- ・特定相談支援、障がい児相談支援
- ・保育所等訪問支援事業

こども部会

- ・児童発達支援センター事業
- ・放課後等デイサービス事業

はたらく部会

- ・就労継続支援(B型)事業所の運営

ささえる部会

- ・居宅介護・移動支援事業
- ・グループホームの運営

まちづくり部会

- ・コミュニティカフェの運営
- ・地域交流イベントの企画



【スタッフの皆さん】



【春日井こども発達支援センターてくてく】

0歳から就学前までの子どもの発達に関する療育機関です。



「高蔵寺リ・ニュータウン計画」と「まちスウィング」の役割

「高蔵寺リ・ニュータウン計画 2021-2030」

- 「高蔵寺リ・ニュータウン計画」は、愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンが抱える少子高齢化や空き家問題などの課題を解決し、持続可能なまちとして再生(リ・ニュー)させるための未来構想です。
- 現在は2021年に策定された「高蔵寺リ・ニュータウン計画 2021-2030」に基づき、以下の施策を中心に推進されています。

①多世代交流拠点の整備

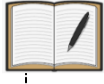
旧小学校施設をリノベーションした「グルッポふじとう」(高蔵寺まなびと交流センター)を整備。図書館や児童館、カフェを備え、多世代が交流できる拠点となっています。

②住宅・空き家対策

若い世代の移住・定住を促すため、空き家バンクの運営や、空き家の購入・建て替えに対する補助金制度を継続しています。

③エリアマネジメントとプロモーション

「高蔵寺まちづくり株式会社」が主体となり、市民を巻き込んだプロジェクト「ReNEW部KOZOJI」などを通じて、まちの魅力を発信しています。



*高蔵寺ニュータウンの現状

千里(大阪)、多摩(東京)と並ぶ日本三大ニュータウンの一つとして1968年に入居が開始されましたが、人口は、1995年の約52,000人をピークに減少しており、2025年10月現在、約41,000人となり、高齢化率は、36.9%と市内他地区に先行して高齢化が進んでいます。(市内平均は、26.1%)。

計画における「まちスウィング」の役割

- 「高蔵寺リ・ニュータウン計画 2021-2030」において、「まちスウィング」は、多世代交流の拠点運営や住宅支援を通じ、計画の核心である「持続可能なまちづくり」を実務レベルで担う重要なパートナーとして位置づけられています。

①拠点運営を通じた賑わいと交流の創出

計画の象徴的なプロジェクトである、旧小学校をリノベーションした多世代交流拠点施設「グルッポふじとう」において、コミュニティカフェの運営や、実行委員会としてイベントの主催・協力など、その運営に深く関与しています。

②インクルーシブな地域福祉の実現

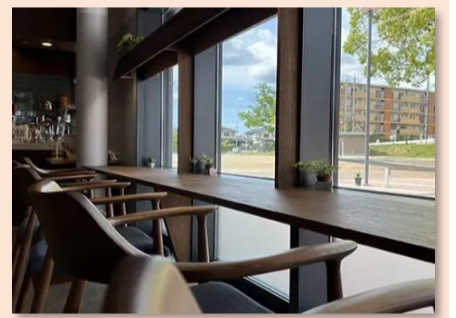
「誰一人取り残さない共生社会」の実現に向け、「グルッポふじとう」内で、障がいのある親子が相談できる「児童発達支援センター」や「放課後等デイサービス」を生活圏内に統合し運営するとともに、不登校児の支援やひきこもり当事者の交流会など、複雑な地域課題に対し、福祉専門職の知見を活かした活動を展開しています。

③次世代の住宅支援(居住サポート事業)

重要課題である空き家・ストック活用において、行政やUR都市機構と連携し、身寄りのない高齢者や障がい者など「住宅確保要配慮者」に対する居住支援を行う協働事業の展開や、地元の薬局や医療関係者と「高蔵寺居住サポートネットワーク」を組み、専門職が連携して入居者を支える体制整備を推進しています。

④廃校跡地の利活用推進

旧西藤山台小学校跡地の「ノキシタプレイス」において、体育館のリノベーションや広域的な多世代交流事業を担い、計画が掲げる「既存資産の継承と活用」に取り組んでいます。



助成金の活用状況・成果

今回の助成事業のテーマ:「センターが地域の原動力となり支援者を支える講演会・研修会の取り組み」

- 時代のニーズに即応し、より高度で専門的な療育を地域に提供するために、職員のスキルアップや地域への情報発信の場となる研修会や講演会を積極的に開催したいと考えていました。
- しかしプロジェクターやアンプ等の機材を所有していなかったため、開催の都度、外部より手配する必要があり、運営上の大きな負担となるとともに、開催の量・質の向上に向けた制約となっていました。
- 今回の助成により必要な機材を揃えることができたので、運営がスムーズになったことから、大規模な会場を使った、地域の児童発達支援事業所や保育所、学校で障がい児支援に従事する人を対象とした研修会や講演会の実施機会が増え、地域療育の質の底上げに貢献できました。
- また、保護者会や職員研修など、比較的小規模のイベントや研修会も、機動的に企画・開催しやすくなりました。



【整備した機材】
プロジェクター、
スクリーン、ワイヤレスアンプ、大活躍です。



【「地域連携の研修会」の様子】
地域で福祉事業に関わる方との連携を深めます。

1年経過した現在の状況

- 2年目に入った2025年度も、引き続き研修会・講演会を実施し、地域の保育園の方や福祉事業所の方など、「子どもへの支援を学びたい」という方が前年度より増えており、手応えを感じています。
- 福祉分野の職員に加え、地域の保育園・小学校など保育・教育に関わる職員の参加も得られ、分野を越えたネットワークの広がりにつながっています。
- 法人内においても機材を活用し、分野横断的かつ実践的な研修をタイムリーに開催し、職員のスキルアップにつながっています。



【「講演会」の様子】

子どもの支援に関わる職員向けの講演会を主催しました。



【「職員研修」の様子】

ビジュアルな教材を活用して、支援に関する実践的な研修を実施しています。

今後の抱負など...

- 今後も、地域の中核を担う児童発達支援センターとして、専門的な発達支援と相談支援の充実を図るとともに、研修や助言等を通じた地域支援を推進し、支援の質の向上とネットワークの強化に努めてまいります。

